

平成11年度第6回定期研究会 議事録

日 時：平成12年3月2日(木) 15:00～17:30

場 所：創建

出席者：泉野(玉野コン)、加藤(長大)、熊沢(宇野重工)、近藤(名城大学)、桜井(東京鉄骨)、
柴田(大日)、清水(信州大学)、山田(名古屋大学)、渡辺(オリコン)、
塩見(中部大学) 以上10名

1. 議事録の確認

前回の議事録を一部修正し、承認された。

2. 幹事会報告

(1) 研究委員会について

「橋梁の補修・補強の事例研究 山田代表」

「構造設計おける「かたち」の決定プロセス 塩見代表」

について総会で会計を含めて報告する。

(2) インターネット情報公開(葛西幹事)

サーバーを何処に置くのかを検討でき次第、ホームページ内容を検討することになった。

(3) K A B S E (九州橋梁・構造研究会)との交流

本年度の交流として、互いの研究会の資料を交換することとした。

(4) 平成12年度の運営体制

代表、幹事長、会計担当幹事および名簿担当幹事は継続することになった。

総会前に開催される幹事会までに、各担当幹事に了解を頂くことになった。

(5) 総会・定期研究会の日程

総会および第1回定期研究会：5/10, 5/16, 5/23のいずれか。

定期研究会：第2回 6/20, 第3回 8/22, 第4回 10/17,

第5回 12/19, 第6回 中部支部研究発表会の前日

(6) 総会・定期研究会講師の推薦について

講師の推薦が3名あった。

3. 講演

(1)「炭素繊維強化樹脂板の鋼構造物への適用について」(名星大学 鈴木博之氏)

炭素繊維強化樹脂板は、きわめて軽量であり、施工条件の厳しい補強工事等への適用がおいに期待されている。炭素繊維強化樹脂板の鋼構造物への適用に関し、切り欠き材の補強に関する基礎的研究、亀裂を有する部材の補強に関する基礎的研究、カーボン板で補強された鋼部材の曲げ試験、既設鋼製橋脚の耐震補強について講演された。

(2)「ゴム材料の環境劣化対応」(東海ゴム工業株式会社 夏堀功氏)

主にゴム支承に着目しながら、ゴムの概論、ゴムの劣化因子と評価方法、劣化事例から改良手法について講演された。ゴム支承の損傷(きれつ)の発生状況は、寒冷地でその割合が高いこと、改良配合品による低温耐候性改良は、屋外暴露試験において良い評価が得られたことを報告された。